

～ウィズ便り～

令和4年8月号

8月に入り、じりじりと照りつける太陽の日差しがより一層厳しくなって参りました。節電も促される中、やはり熱中症からご自身の身を守る事を一番に考えなければいけない時期でもあります。

エアコンや扇風機を適宜利用して、こまめに水分をとる、汗をかいたら塩分も補給するなど、意識的に対策をとるようにして下さいね。そしてどんな時でも健康のベースになるのは、バランスの良い食事と十分な睡眠！世代を問わず、日頃から心がけていかなければなりません。

熱中症対策グッズを上手く活用して、厳しい夏を乗り越えましょう！



介護の現場から・・・シリーズ～介護すること、されること～ (23) いつまでも自分らしさにこだわって暮らしたい！

Aさんは94歳の女性、長年一人暮らしをエンジョイされ、今も自分の思うままの生活スタイルを続けておられます。しかし、これまでに転倒による左橈骨遠位端骨折（整復後ギプス固定）、左大太骨転子部骨折（骨接合術第12胸椎圧迫骨折（保存療法）と高齢者の4大骨折のうちの3つの骨折を体験。その都度、元の生活に戻ることを目指して努力してこられました。

2回目、83歳の時の骨折では、退院時、リハビリの先生から、歩行器はずっと手放せないことになると言われ、リハビリのためデイケアに通うことを勧められましたが、Aさんは拒否。名取になられた日本舞踊を続ければ歩けるようになると主張。日本舞踊はバランスが大事、軸の通った動き、滑らかに弧を描く動作を必要としているので必ず良くなると、一人で練習に励まれました。その結果、屋外歩行も可能になり、ご自身で着付けやお化粧をされ、デイケアの利用はされず、ゲストとしてデイケアで舞を披露するまで回復されました。

現在は、日常生活では毎日歩いて15分くらいの所にある喫茶店に行き、顔なじみの方と一緒に食事や話をすることを大切にされています。近くの公園を散歩したり、好きな書物を買いに行かれたりと、ご自身のペースで外出を楽しんでおられます。歩行は不安定なため、リハビリの先生から歩行器を使用するように指導されました。Aさんは歩行器を押して歩きたくないと主張。それもAさんのライフスタイルであると家族様も納得され、歩行器は使わずに、とてもおしゃれな杖で歩かれています。おしゃれな杖でしっかりと歩いているところを見てもらいたいというAさんの思いを大切にしながら、転倒防止の為に、訪問リハビリによる歩行能力の維持を図り、Aさんにもご自身の責任において、ゆっくりと慎重に歩くように意識をしていただいています。

日常生活の動作も、多くの自助具や福祉用具を上手く使いこなし、ペットボトルや瓶の蓋も他人の力を借りることなくご自身で開けることができておられます。また、お風呂好きで昔から毎日湯船につからないと気が済まない性格のため、その望みが叶うように、浴室には手すりやシャワー椅子を設置し、今でも毎日一人で入浴を楽しんでおられます。

自宅環境では、Aさんこだわりの彫刻が施されたお姫様仕様の木製ベッドを利用。ベッド上の動作がしにくくなってきても電動ベッドを拒否、大切なベッドを使い続けるため、ベッドサイドに据え置き式の手すりを設置し、動作練習をされました。今もお気に入りのベッドで心地よく眠ることができます。

Aさんから学ばせていただいたことは、個々のライフスタイルや生活のこだわりを尊重しながら、併せて安全も考慮した環境整備をしていくことが、意欲的に自分らしく生活するためには不可欠だということです。自分らしく満足できる生活を送るために、その人のこだわりを大切にした支援をすることがとても重要であることに気づかされました。

リスク（Risk）は、損失の機会（Chance of Loss）ともいい、その語源は「行動することによって（あるいは行動しないことによって）危険に遭う可能性や損害を被る可能性を意味する概念」です。それはある意味、チャレンジすることを推奨する概念とも言えます。高齢者が自立を目指されるには、時に可能性の追求やチャレンジも必要です。そしてその為に、専門家によるリスクマネジメントの視点、住環境整備や福祉用具活用等が必要となります。



